

知床ネイチャーキャンパス2016について

公益財団法人知床自然大学院大学設立財団は、2016年10月9～10日、野生動物と人との共存策を学ぶ、知床ネイチャーキャンパス2016を開催しました。

知床ネイチャーキャンパスとは・・・

野生生物の科学的保護管理（ワイルドライフマネジメント）の先進地である知床を舞台に、この分野の第一線で活躍する先生方が講師を務め、保護管理の実際に関する講義、野外実習を体験する教育プログラムです。

日 時：2016年10月9日～10日

講義場所：知床第一ホテル

実習場所：世界遺産知床及び周辺の野外フィールド

受講生：22人（大学院生や学部学生、社会人）

<講師>

桜井泰憲（北海道大学名誉教授）

鈴木正嗣（岐阜大学応用生物科学部教授）

梶 光一（東京農工大学院農学研究院教授）

中村太士（北海道大学大学院農学研究院教授）

敷田麻実（北陸先端科学技術大学院大学教授）



10月9日（1日目）

1日目の9日は主に講義。

世界自然遺産知床の特徴、知床や全国の野生動物管理の実際、森、川、海のつながり、エコツーリズムの考え方など、とても濃密な内容で、質疑応答も活発に行われました。



海域も世界自然遺産である知床。桜井先生からは気象条件など様々な要因で変化し続ける海についての講義でした。



鈴木先生の講義は全国的な野生生物保護管理について。活発な質疑応答がありました。



梶先生の講義は、知床とアメリカ・イエローストーン国立公園を比較した野生生物保護管理について。



森、川、海のつながりを考える中村先生の講義。サケ科魚類が遡上するための河川工作物（ダム）の改良経過などを学びました。



地域資源とエコツーリズムについて学んだ敷田先生の講義。受講生同士で和気あいあいと話し合う時間もありました。

10月10日（2日目）

前日にみっちり講義を受け、いざ知床のフィールドへ。
10月上旬にしてはとても寒く、不安定なお天気でしたが、
各現場でいろいろなことを学ぶことができました。



実習地① しれとこ100平方メートル運動ハウス



しれとこ100平方メートル運動は、1977年に知床斜里町が始めたナショナルトラスト運動。乱開発の危機にあった国立公園内の開拓跡地を寄付を募って保全し、原生の森を復元する取り組みです。



取り組みを解説するパネル、寄付者のネームプレートなどが展示されているハウス内。実習講師である増田泰・知床財団事務局長から、次に向かう運動地の概要について説明を受けました。

実習地② しれとこ100平方メートル運動地



近年、増えすぎたエゾシカの食害などに悩まされている森づくりの現場。エゾシカの囲いワナを見学し、仕組みやなぜここに設置されているかの説明を受けました。



実際に内部も見学。他にも知床の森に張り巡らされているエゾシカ柵を見学し、柵の内外での植生の違いなどを観察しました。

実習地③ 知床五湖



原生林に囲まれた5つの湖、知床連山、オホーツク海など、知床を代表する観光地の知床五湖。ヒグマの生息地であり、多くの人を訪れるエコツアーの現場です。



かつてはヒグマ出没や植生破壊などさまざまな課題がありましたが、これらを解決すべく、2011年度から新たな利用制度が運用されています。制度を学びながら地上遊歩道を歩きました。

実習地④ 岩尾別川河口、流域



ヒグマに気をつけながら、実際に河口を歩き、遡上中のサケを観察したほか、近くの「さけますふ化場」の仕事や漁業について学びました。



その後、歩いて上流へ。サケ科魚類が遡上できるように改良された河川工作物（ダム）を見学し、河川生態系の回復について学びました。



講義で学んだことを実際に現場で確かめるといふ、知床ならではの体験。途中雨がポツポツ落ちてきて、とても肌寒い天気でしたが、熱心にメモを取り、話を聞く受講生の顔が印象的でした。

ワークショップ・まとめ

野外での実習後はホテルに戻り、最後のワークショップ、まとめを行いました。
世界自然遺産・知床の環境を守りながら、
ヒグマとの共存のルールを、知床を訪れる人にどう伝えたら効果的なのかー。
2日間の講義、実習を踏まえ、受講生同士で議論し、
アイデアを発表してもらいました。



4グループに分かれ、受講生同士で議論。現状を踏まえた上で、ルールを守ってもらう方策、そして守ることで得られるメリットを考えるのが今回の課題です。和気あいあいと、そして真剣に課題に取り組みました。



スケッチブックを使って、4グループがそれぞれのアイデア、その理由などを発表しました。発表時間は3分。正解のない、とても難しい課題でしたが、どのグループも2日間の学びを生かした斬新なアイデアを発表してくれました。



発表後には、現場で日々活動している実習講師、知床財団・増田事務局長をはじめ、各講師からコメントをいただきました。